

確認会議で確認できた主な内容（案）

北海道及び幌延町は、令和 8 年 4 月 27 日から 8 月 21 日まで、3 回にわたり開催した令和 8 年度幌延深地層研究の確認会議において、日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）の説明により、昨年度までの確認会議で確認した事項に加え、以下の事項について確認した。

記

1 研究成果及び研究計画について

○ 令和 7 年度の研究成果及び令和 8 年度研究計画について

- ・機構は、令和 7 年度調査研究計画書のとおり 2 つの必須の課題について研究を行い成果を得ており、令和 8 年度の研究についても計画どおり開始し、遅れや新たな課題は生じていないこと。

【令和 7 年度対象課題】

- ア. 実際の地質環境における人工バリアの適用性確認
- イ. 処分概念オプションの実証

- ・人工バリア性能確認試験では、令和 8 年度から解体試験を開始していること。また、処分概念オプションの実証では、令和 7 年度に、深度 500m の調査坑道が完成し、先行ボーリングの有効性の検証や掘削損傷領域の広がり の把握を通じて、稚内層の浅部（深度 350m）と深部（深度 500m）の地質環境の比較を実施し、令和 8 年度には、実際にピットを掘削する位置を決定するための岩盤の状態の調査などを計画していること。
- ・引き続き、令和 10 年度までに地層処分の技術基盤の整備が完了できるよう取り組むこと。

○ 深度 500m までの掘削について

- ・令和 5 年度から再開した掘削工事などの施設整備業務については、西立坑の掘削が令和 7 年 6 月に深度 510m まで完了するとともに、500m 調査坑道の掘削が令和 7 年 9 月に完了し、路盤の整備や機器の設置を経て、計画より早く令和 8 年 1 月に無事故、無災害で施設整備を完了したこと。

○ 「令和 2 年度以降の幌延深地層研究計画」に対する外部委員会からの評価について

- ・原子力機構の外部委員会である「地層処分研究開発・評価委員会」や「深地層の研究施設計画検討委員会」により、「令和 2 年度以降の幌延深地層研究計画」に沿って着実に進められているとの評価を受けていること。

- ・地下施設の埋め戻しについては、国内外の技術動向を踏まえて、地層処分の技術基盤の整備の完了が確認できれば、埋め戻しを行うことについて具体的工程を示すとしていること。また、令和8年度には、大深度地下施設の閉鎖に関する課題などを整理する予定であり、その結果を今後の確認会議などで説明すること。

2 幌延国際共同プロジェクトについて

○ 令和7年度の実施状況について

- ・令和7年度の幌延国際共同プロジェクト（以下「共同プロジェクト」という。）では、同年度から開始したフェーズ2の研究開発について、原位置試験、室内試験や解析の実施計画を検討したほか、合同タスク会合を現地で開催し、各深度で実施している原位置試験の進捗状況について確認するとともに、フェーズ1の成果を報告書として取りまとめ、OECD/NEAのホームページにて公開されたこと。

○ 令和8年度の実施内容について

- ・令和8年度は、令和7年度から開始されたフェーズ2として、フェーズ1（令和4年度後半～令和6年度末）で設定した3つのタスクに関する研究開発を継続的に実施すること。

【3つのタスク】

タスクA：物質移行試験

タスクB：処分技術の実証と体系化

タスクC：実規模の人工バリアシステム解体試験

○ 共同プロジェクトについて

- ・共同プロジェクトの実施にあたっては、三者協定を遵守し、原子力機構が主体となり、原子力機構の研究目的や課題と整合し、原子力機構の責任において研究施設を運営・管理することや、「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」の研究期間内で実施するものであり、その進捗にかかわらず、共同プロジェクトの実施期間は令和10年度までであること。
- ・共同プロジェクトの参加機関として、新たに韓国原子力環境公団（KORAD、韓国）の参加について、管理委員会で全会一致で承認され、3月にKORADが共同プロジェクトの協定書に署名し、手続きが完了したこと。また、これによるプロジェクト全体への進捗に影響はないこと。

3 情報公開・情報発信・理解促進について

- ・可能な限り分かりやすい説明となるよう、専門的な内容や用語等について、より丁寧な説明を行ったり、読み手の負担にならないような表現や文章の長さとするなど、引き続き、説明資料の見直しや、年度の計画書、成果報告書での表現の改善などに努めること。

- ・ 研究全体における個々の研究成果の位置づけが分かるように概念図等を作成するなど、分かりやすい情報発信に努め、確認会議などの場を活用して確認できるようにしていくこと。
- ・ 令和7年度は、これまで実施している見学会や説明会に加えて、札幌で幌延町と共同でイベントを開催するなどの理解促進活動を進めたこと。また、地下施設見学会の参加者を含めたゆめ地創館に来館した多くの方々からは、地層処分や幌延深地層研究センターでの調査研究に関する理解が深まった旨の感想・意見が寄せられており、相互理解は進んでいると考えられるが、引き続き、分かりやすい情報発信に努めること。
- ・ 地下施設の見学については、現状、資材等の搬出入のため、500m調査坑道へのアクセスが西立坑のみとなっており、西立坑キブル（エレベーター）に不具合が生じた際を想定して、350m調査坑道以浅とされているが、令和9年秋以降は500m調査坑道も見学対象となる予定であること。